

2021年3月期 第2四半期
連結決算概要

2020年11月11日

日本リーテック株式会社
(証券コード：1938)

■ 業績要旨

- ・ 前期比、**減収増益決算**となった。

■ 主な要因（対前期比）

- ・ 受注高は、199億円と**前期比1億円弱の増加**となった。
新型コロナウイルス感染症の影響により発注時期の延期等があり、鉄道電気設備部門の減少があったものの、道路設備・屋内外電気設備・送電線の各部門については大型工事を含め受注が堅調に推移し、前年同期と同水準となった。
- ・ 売上高は、221億円と**前期比41億円の減少**となった。
各部門とも前期からの繰越工事をはじめ、施工が順調に進捗したものの、前期は大型プロジェクト工事の進捗による売上の大幅増加があったため反動減となった。
- ・ 営業利益は、12億円と**前期比5億円の増加**となった。
高い原価率であった大型プロジェクト工事が前期に完成引渡しとなったことで利益率が改善、加えてコストダウンにも取り組んだ結果、前期比増益となった。
- ・ 親会社株主に帰属する四半期純利益は、11億円と**前期比4億円の増加**となった。

連結損益計算書



(単位：億円)

	2020年3月期 2Q実績	2021年3月期 2Q実績	前期比	2021年3月期 通期予想	
受注高	198	199	+0	-	-
売上高	263	221	▲41	540	
営業利益	7 2.8%	12 5.7%	+5	39	7.3%
経常利益	10 3.9%	16 7.3%	+6	42	7.9%
親会社株主に帰属 する四半期純利益	7 2.7%	11 5.2%	+4	29	5.5%

※ 公表値は、決算短信で公表している通期の予想値となります。

※ 記載されている割合は、利益率を表しております。

※ 前期比含め各数値は、表示単位未満を切り捨てて表示し、比率は単位未満を四捨五入しております。(以降同様)

連結貸借対照表

(単位：億円)

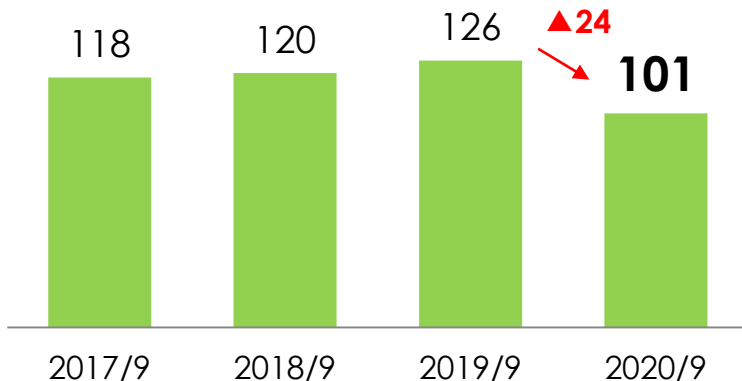
	19/09 2Q 実績	20/09 2Q 実績	増減
流動資産	392	429	+36
固定資産	340	347	+6
資産合計	733	776	+43
流動負債	169	187	+17
固定負債	68	67	▲1
負債合計	238	254	+16
純資産合計	494	521	+26
負債純資産合計	733	776	+43
自己資本比率	67.5%	67.2%	▲0.3P

※自己資本比率 = (純資産-非支配株主持分) / 総資産

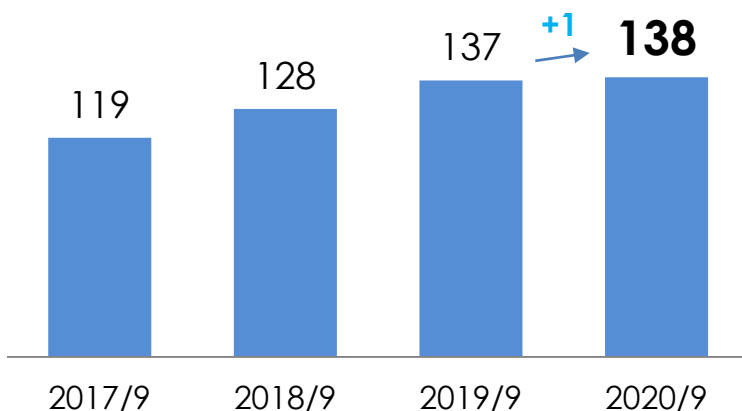
■ 主な要因（対前期比）

- ・流動資産の大きなウェイトを占める売上債権は同水準となったものの、手持ちの現金預金を増加させたことにより、前期比36億円の増加となった。
- ・固定資産は、保有する上場株式の時価評価額が減少した一方で、独身寮の取得に伴う有形固定資産の増加により、前期比6億円の増加となった。
- ・流動負債は、売上高の減少に伴い仕入債務が減少した一方で、短期借入金の増加により、前期比16億円の増加となった。
- ・自己資本比率は、67.2%と前期比0.3P低下した。

■ 受注高 (第2四半期累計) (単位: 億円)



■ 売上高 (第2四半期累計) (単位: 億円)



主なポイント

- 受注高については、101億円と前期比24億円の減少となった。新型コロナウイルス感染症の影響で発注時期の延期等があった。
- 売上高については、138億円と前期比1億円の増加となった。前期からの繰越工事を含め、首都圏及び東北地区の各大型工事も順調に進捗している。

主な施工実績 (進捗中案件含む)

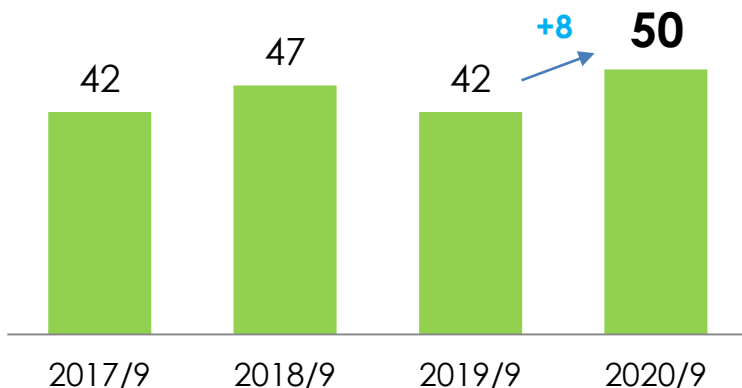


トンネル内配電設備修繕
(福島県/新潟県)

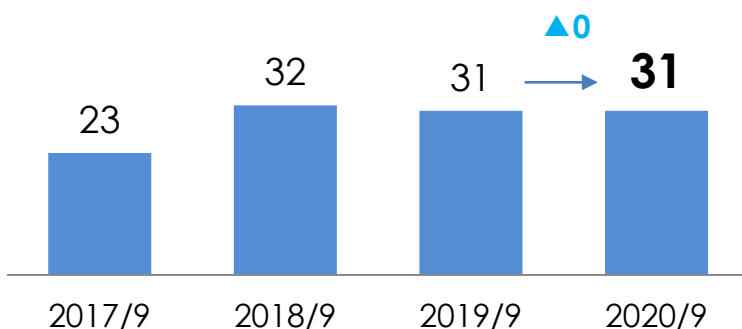


地中送電線新設
(東京都)

■ 受注高 (第2四半期累計) (単位: 億円)



■ 売上高 (第2四半期累計) (単位: 億円)



主なポイント

- 受注高については、50億円と前期比8億円の増加となった。主に高速道路における標識補修及び通信設備、交通信号機改良工事等、安定した受注を確保している。
- 売上高については、31億円と前期比同水準となった。上記の標識補修に加え、前期から繰り越した大型工事の進捗など堅調に推移している。

主な施工実績 (進捗中案件含む)



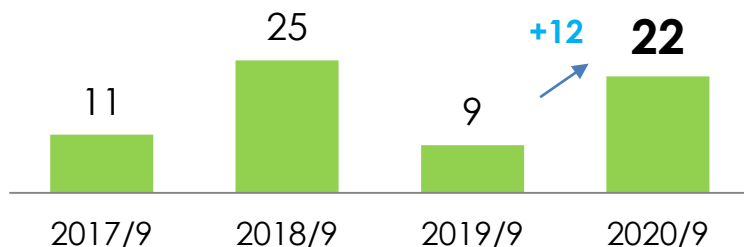
首都高速道路標識補修
(東京都)



交通信号機改良
(東京都)

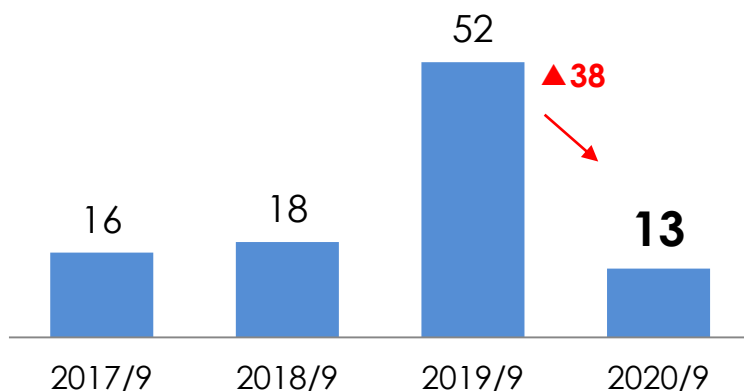
■ 受注高 (第2四半期累計)

(単位: 億円)



■ 売上高 (第2四半期累計)

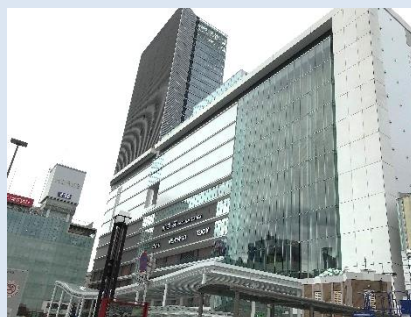
(単位: 億円)



主なポイント

- 受注高については、22億円と前期比12億円の増加となった。金融・教育機関や民間企業のビル新築および大型改修工事を複数受注した。
- 売上高については、13億円と前期比38億円の減少となった。前期は大型太陽光設備工事等の売上計上があったため反動減となった。

主な施工実績 (進捗中案件含む)

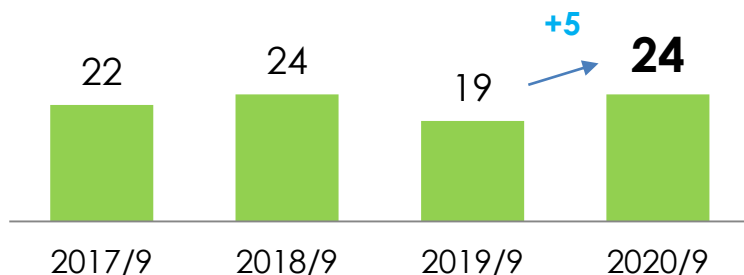


J R横浜タワー新築電気設備
(神奈川県)

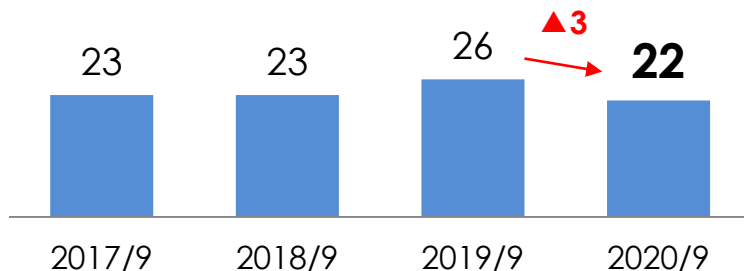


商業施設電気設備修繕
(東京都)

■ 受注高 (第2四半期累計) (単位: 億円)



■ 売上高 (第2四半期累計) (単位: 億円)



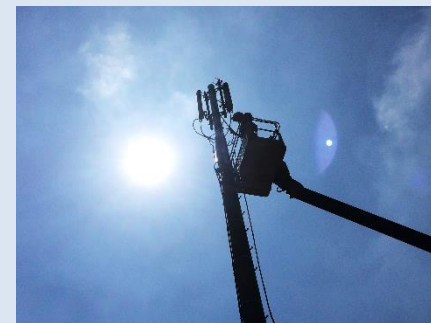
主なポイント

- 受注高については、24億円と前期比5億円の増加となった。鉄塔建替えや幹線増強工事などの大型工事をはじめ、受注は堅調に推移している。
- 売上高については、22億円と前期比3億円の減少となった。前期から繰り越している大型の地域間連系線工事の進捗等、堅調に推移している。

主な施工実績 (進捗中案件含む)



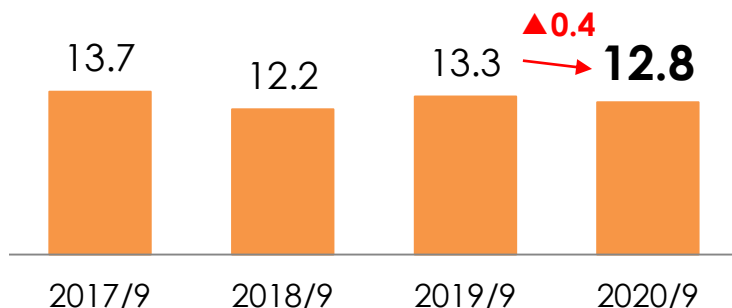
清水南線鉄塔建替
(群馬県)



通信基地局建設
(広島県)

兼業事業

■売上高（第2四半期累計） (単位：億円)



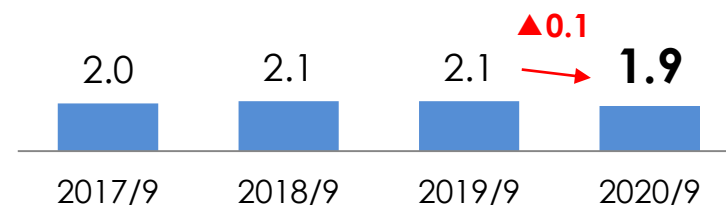
■売上高は12.8億円と前期比0.4億円の減少となった。

<兼業事業の内容>

- ・交通施設に関する標識及び交通安全用品の製造・販売業務
- ・建物・関連設備の保守管理業務、機械装置・仮設材関係の保守管理業務

不動産賃貸事業

■売上高（第2四半期累計） (単位：億円)



大崎ブライトタワー
(区分所有)



NRグランディール万代
(個人向け賃貸物件)



2021年3月期 連結業績予想

連結業績予想サマリー



■ 業績予想要旨 (2020年10月22日公表)

- 2021年3月期の業績については、**前期比“減収減益”**を予想。
- 当社グループが受注している工事は、公共性が高い社会インフラ整備事業が主体。コロナ禍ではあるものの設備の維持・更新など一定の需要を見込む。
- 今期も前期からの繰越工事が高水準を維持している。これら工事の進捗が売上に寄与する予定だが、大型プロジェクト工事の竣工引き渡し集中し、過去最高の売上高を計上した前期と比較し反動減を見込む。
- 加えて新型コロナウイルス感染症の収束時期が依然として見通せず、受注環境の縮小を想定。
- 減収により、営業利益は39億円、親会社株主に帰属する当期純利益は29億円を見込む。

連結業績予想数値



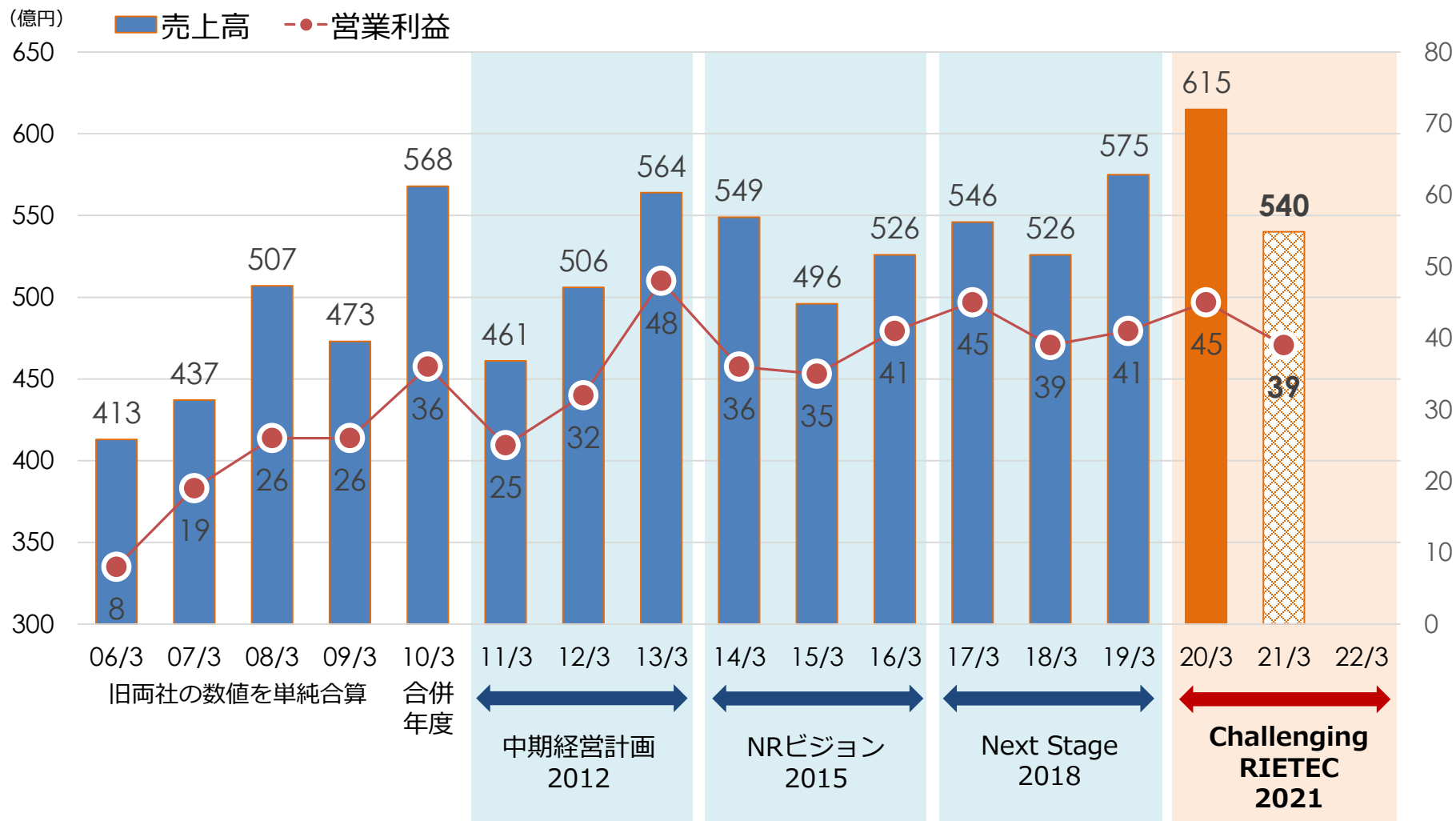
(単位：億円)

	2020年3月期 (実績)		2021年3月期 (予想)		前期比
売上高	615		540		▲75
営業利益	45	7.4%	39	7.3%	▲5
経常利益	51	8.4%	42	7.9%	▲8
親会社株主に帰属する 当期純利益	36	5.9%	29	5.5%	▲6

※ 記載されている割合は、利益率を表しております。

※ 前期比含め各数値は、表示単位未満を切り捨てて表示し、比率は単位未満を四捨五入しております。

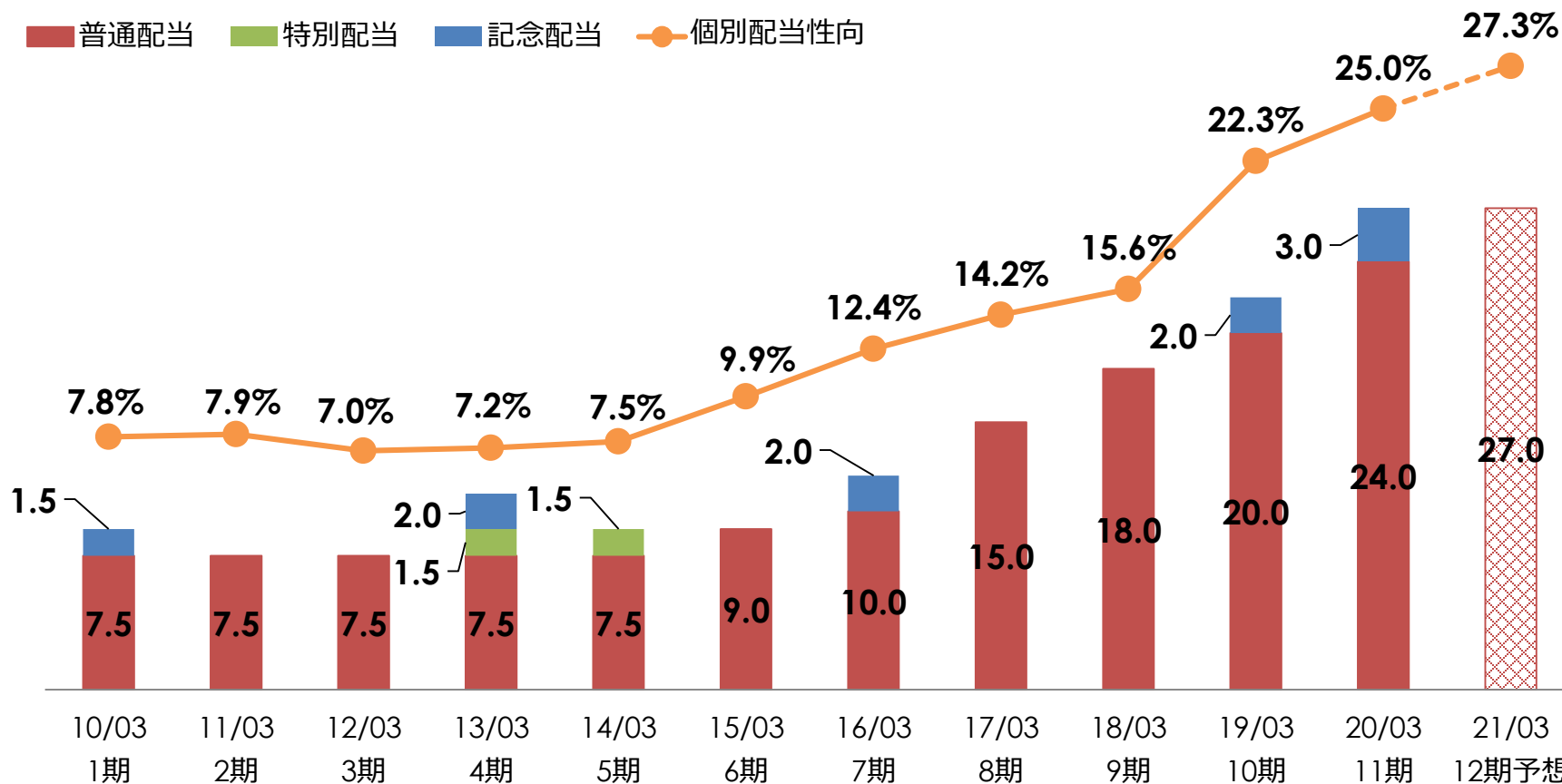
売上高及び営業利益の推移（連結）



配当方針及び配当状況の推移

当社は、株主の皆様への利益還元を経営の重要課題と位置付けており、経営体質の強化ならびに将来の事業展開に備えるための内部留保を確保しつつ、配当性向にも配慮しながら安定的な配当を継続していくことを基本方針といたしております。

こうした方針のもと、経営基盤と収益力の伸長に努め、将来的に個別配当性向30%を目指してまいります。



本資料に記載されている業績予想等の将来に関する記述は、日本リーテックグループが現時点で入手可能な情報及び合理的と判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因によって異なる結果となる可能性があります。

なお、異なる結果となった場合でも当社は本資料を改定する義務を負いかねますので、ご了承ください。

(お問い合わせ先)

日本リーテック株式会社
経営企画部 広報・IRグループ

〒101-0054 東京都千代田区神田錦町1-6
T E L : 03-6880-2740
F A X : 03-6880-2750
H P : <http://www.j-rietec.co.jp/>